

私立短期大学図書館協議会 北海道地区協議会通信

No.47

2026年

3月31日

帯広大谷短期大学附属図書館(編集) 私短図協北海道地区協議会(発行)

私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会 令和7年度研修会

デジタル時代における子どもと本の関わり

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 佐藤 賢輔氏 講演

令和7年8月29日(金) 於:北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館

【報告】帯広大谷短期大学附属図書館 水野 有子

令和7年8月29日(金)、発達保育実践政策学センターの佐藤賢輔氏をお招きし、絵本・本・デジタルメディアと発達の関連をテーマにご講演いただきました。実務に対し即時性や実効性が期待できるトピックということもあり、大学図書館関係者のみならず、学校図書館関係者や教員などさまざまな職種の方が受講されました。

私たちはこれだけデジタルの恩恵を受けていながら、〈なんとなく〉子どもにデジタルメディアを見せすぎるのは良くないことと捉え、〈なんとなく〉子どもの読書離れの要因であるように考え

てしまいます。本講義はそれらをさまざまな研究機関の調査結果や統計を踏まえて紐解き、その感覚がいかに関面的であるかを示してくれました。

特に印象深かったのは、デジタル利用を食生活に例える「デジタルダイエット」という考え方です。普段の食事と同様、良質な食べもの(コンテンツ)を適度な量(時間)で摂取(視聴)し、適切なバランスを維持することが重要であると学びました。良質なデジタルフードとなるデジタル読書を健全に享受するには、制限ではなく促進的な介入(あらかじめ子どもとインターネットについて話し合う、子どもがインターネットを使うときは近くにいる等の適切で積極的な介入)が必要であると強く感じました。

かつて漫画は内容にかかわらず、図書館で所蔵すること自体に否定的な見解がなされていましたが、いまでは読書支援や情報アクセスに有用なツールと位置づけられ、教育現場でも学習リソースのひとつとして積極的に活用されています。同じようにデジタルメディアも、デメリットにばかり目を向けるのではなく、どんなコンテンツをどう活用すれば読書支援に繋げられるかを考えていくべきではないかと思いました。



佐藤賢輔氏

後日、テレビが普及し始めた頃にも子どもの読書量との相関を調査しているだろうと思い、当時の文献を調べてみました。すると予想に反して、回答の六割が「テレビがあっても読書量は変わらない」というものでした。暫時的に読書時間の減少はあるものの、設置からしばらくすると再び増加傾向となる点や、テレビに起因する読書興味の喚起がみられるという結果が示されていました。

複数の文献で共通していたのは、「読書とテレビが手を結ぶ面に留意した読書指導」の必要性和重要性です。一家に一台、チャンネル決定権も限られていたテレビと、いまやひとり一台、いつで

も自由に見ることのできるデジタルメディアを同列に扱うことはできません。しかしそれらを〈読書との掛け合わせで新たな相乗効果を創出し得るもの〉と捉えれば、また違う向き合い方ができるのではないのでしょうか。



会場の様子

>>>>>> 令和7年度 各館の活動報告 <<<<<<<

当館で帯広市民大学講座が開催されました

帯広大谷短期大学附属図書館 水野 有子

令和7年12月16日(火)、当館にて帯広市民大学講座第41集「帯広大谷短大附属図書館にフォーカス」が開催されました。筆者と当館館長・吉田真弓が二部構成で講師を務め、さまざまな本を紹介しながら、今回の裏テーマである「比較」を受講者とともに楽しみました。

同一タイトルを並べて、訳者や再話者、挿絵画家、出版社、さらには時代背景によってどのような相違や変化があるかを見比べると、とても面白い発見があります。例えば夏目漱石の『吾輩は猫

である』は、本文中に〈吾輩〉の毛色や模様の描写があるにもかかわらず、表紙や挿絵で表される容姿は黒、白、トラ模様などバラバラです。これだけ有名な作品でありながら〈吾輩〉の容姿のイメージは案外あやふやだということも興味深い点です。

また、シェイクスピアの戯曲『ロミオとジュリエット』の有名なバルコニーの場面も、訳者によって印象が大きく異なります。明治時代の訳文は七五調で、さながら歌舞伎の口上。昭和に入るとより激情型となり、ジュリエットの儂げなイメージ像を覆すような数々の訳文が登場することを紹介しました。

吉田は昔話『三びきのこぶた』、『猿蟹合戦』、『かちかちやま』の冒頭や結末の違いについて、受講者へ回想を促しながら掘り下げました。元来口承文芸である昔話は時代や地域による違いも大きく、その教訓や普遍性、残酷性に触れながら現代



講座の様子(前半)

までの変遷をたどりました。何でも原典が正しいということではなく、改変型との違いを踏まえながら、昔話の本質的な魅力を子どもたちにどう伝えていくかを考える契機になったのではないのでしょうか。

自由に改変できるパブリックドメインには曲解や偏重も生じ得ます。それを否定するのではなく〈差異〉ごと作品を鑑賞する。そんな楽しみ方も、同一タイトルが複数揃う図書館ならではの

ことを知ってもらえたのではと思います。



講座の様子(後半)

館内企画「一棚展示」を行いました

釧路短期大学附属図書館 菊地 正明

令和7年度初頭、本学は学生募集停止を決定し、公表するに至りました。これを受け、附属図書館は閉館を想定した種々の作業に着手し、現在も多くの時間を割いています。

この業務が煩雑化するなかで立案した館内企画「一棚展示」ですが、出展者の主体性に大部分を委ねながらも、なんとか無事スタートを切ることができました。

要領はいわゆる「一箱本棚」と同様で、小さく区切った展示スペース（本企画では書棚の一区画）を提供し、その制約のなかで自由に管理・運営をしてもらうというものです。ただし、出展にあたっては条件を2つだけ付しました。ひとつは、自分の「好き」を紹介すること。そしてもうひとつは、館内図書を必ず1冊以上取り上げること。この条件さえ満たせば、本以外の展示も可としました。実際、自身の掲げるテーマに関連するグッズや手作りの品が並べられ、来館する多くの学生の目を引いています。

本企画は図書館の利用活性が主眼にあるものの、学生においても何らかの学びを得られる機会といたく、ねらいを「限られた空間の効果的な見せ方を考え、それを形にするという一連の過程か

ら、計画力や実行力を養い、同時に趣味や関心ごとを通じた学生相互のコミュニケーション機会を創出する」としました。学生にも趣旨を伝え、理解してもらったうえでの着手をお願いしています。

宣伝不足もあり、出展の申し込みが当初の想定を若干下回ってはいるものの、次回につながる経験則が得られたと考えています。

最後に余談となりますが、募集停止公表後、本学機能の維持を望む声が各所であがっているとの報道がなされています。本稿を執筆する1月初旬現在、公立化に向けた検討が進められていることを申し添えます。



館内企画「一棚展示」の様子

令和7年度の図書館活動について

國學院大學北海道短期大学部図書館事務室 西村 千夏

今年度の図書館企画として、本学兼任講師で「文芸創作基礎 B」の講義を担当している児童文学作家・升井純子氏を講師にお招きし、ワークショップと読書会を開催しました。

ワークショップ『私が見つけた秋の絵本を作ろう』では、本学の構内を歩きながら自分だけの秋を探し、落ち葉などを貼り付けて絵本にする予定でしたが、当日はあいにくの空模様。残念ながら外の散策は中止となり、参加者は事前に用意された落ち葉や材料を使ってオリジナルの絵本を完成させました。

最後に作品発表をして、食欲の秋、芸術の秋…参加者それぞれの“秋”を全員で共有しました。

また、読書会は升井氏の著書『君に向かって線を引く』を課題本として開催しました。

学生や教職員約 10 名の参加者が和やかな雰囲気の中、本のテーマとなっている「ヤングケアラー」や登場人物などについて語り合いました。本の感想や意見を交換しながら、学生たちの新たな気付きを得た姿を見られたことで、「ヤングケアラー」について若い世代にもっと知ってほしいという升井氏の思いが届いたように感じました。

当館としても初めての試みで手探り状態だったうえ、インフルエンザの流行により直前まで開催が危ぶまれましたが、事前に夢中になって課題本を読み込んだり、積極的に発言する学生たちの姿を見て、無事に開催できたことを嬉しく思っております。

私自身過去の経験から、読書会は堅苦しく、本を読み込まないと参加できないといったイメージを持っておりましたが、お茶を片手に気軽に参加できる読書会の形もあるのだと知ることができました。

今後も学生や教職員、学外の皆様にも楽しんでいただけるようなイベントを企画したいと思います。



ワークショップの様子

復刻本の世界へ

拓殖大学北海道短期大学図書館 堤 香苗

令和7年度は、貴重本として普段は公開する機会の少ない復刻本の数々を展示する企画展開催が中心となりました。5月、『特選名著復刻全集近代文学館』、6月、大学祭特別展示で『複製版「日本昔噺」』を展示しました。10月から11月にかけて会期を2期に分け第1期は保育学科主催の保育セミナーに併せ開催。保育学科設立当時の「将来、

子どもの豊かな感性を育む職に就く学生にヨーロッパの美しい子ども文化に触れて欲しい」との先生方の思いを振り返り、『世界の絵本館オズボーンコレクション復刻版つのおえセット』と『複製：マザーグースの世界』を展示しました。期間中「保育の計画と評価」の授業で学生がコレクションの意図、当時の子どもへの視点等をレポート

に纏めました。第2期には、日本最初の幼稚園教育の手引書『幼稚園(をさなごのその)』、ほか『平家物語文禄本第三巻・四巻』、『レオナルド・ダ・ビンチ鳥の飛翔に関する手稿』、『御物金澤本萬葉集』、『正本製(しょうほんじたて)第十二編』、『おほかみ』そして原書の『コロンブス航海日誌』、『「トルデシラス条約」調印書』を展示し、学外の方にも観ていただきました。

今年度も大学祭図書館特別企画で宍道勉氏考案の読書プログラム「ドングリとヤマネコ裁判」を開催。学生・教職員・学外の方など昨年参加した方も初めて参加した方も意外な本との出会いを楽しみました。

11月、図書館ボランティア学生の選書ツアーを実施。選ばれた本は専用コーナーに展示中です。



第59回黎明祭図書館特別展示
『複製版「日本昔噺」』



第4回図書館企画展「複製本の世界 part2」
『世界の絵本館オズボーンコレクション』

より使いやすい図書館を目指した活動の報告

北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館 別宮 玲子

学生がより快適に学べる環境を整えるため、館内1階および2階にWi-Fi環境を新たに整備いたしました。その効果として、スマートフォンによる蔵書検索を行う学生が増え、書架の前で何度も検索することで効率よく資料を集めることが出来るようになりました。また、自身のパソコンを持参し、講義の合間などを活用してレポート作成や自習に取り組む学生の姿が日常の光景となっています。図書とデジタル情報を上手に使いこなせるように行っているリテラシー教育とハード面の充実により、当館はこれまで以上に能動的な学びの場として機能し始めています。

また、地域貢献の拠点である「児童図書室」では、通常は金曜午後のみ一般開放を行っています。8月1日から9月5日の期間中は「10時から16時」へと拡大する「夏休み大開放」を実施しま

した。これは、午前中に活動されることの多い乳幼児連れの方や、夏休み中の子どもたちの居場所として利用していただきたいという思いから企画したものです。結果として、午後の来館が難しかった地域の方が久しぶりに訪れてくださったり、初めて利用する親子連れで賑わったりと、大変好評を博しました。期間中はスタンプラリーもあわせて開催し、景品を楽しみに何度も足を運んでいただく良い機会となりました。

数名の学生も図書館ボランティアとして企画に参加し、授業では得られない貴重な学びの場となりました。特に、ある小学生から「怖い本が読みたい」とレファレンスを受けた学生たちは、様々な絵本を提案しましたが、どれを紹介しても納得してもらえず、自分の知識の引き出しの少なさを痛感することとなりました。さらに、子ども

が求めているのは「お化けの怖さ」なのか「ミステリー的な怖さ」なのか、対話を通じて相手の意図を汲み取ることの難しさに直面し、悩みながら本を選んでいました。

マニュアルのない問いに対し、地域の方々と向

き合い試行錯誤したこの経験は、将来社会に出た際の実践力につながるはずですが、本学図書館では、今後も地域社会との連携を深めつつ、学生が共に成長できる環境づくりに努めてまいります。



令和7年度・日誌



—2025年—

- 4月25日
北海道地区協議会令和7年度第1回役員会・総会開催 出席4館/委任状3館
- 5月15日～16日
私短図協全国理事会・総会出席
- 6月6日
総会記録及び会費請求書送付
- 6月11日
令和7年度第1回北海道図書館連絡会議兼第65回（令和7年度）北海道図書館大会運営委員会（第3回）会議出席
- 8月29日
私短図協北海道地区協議会令和7年度研修会開催（会場：北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館、テーマ：デジタル時代における子どもと本の関わり）
- 9月11日～9月12日
第65回北海道図書館大会出席（会場：札幌サンブラザ、テーマ：図書館がつなぐ 人・まち・未来）
- 12月2日
日本図書館協会事務局へ「私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会本年（2025年）の動き」を送信
- 12月16日
令和7年度第2回北海道図書館連絡会議兼第66回（令和8年度）北海道図書館大会運営委員会（第1回）会議出席
- 12月19日
北海道地区協議会令和7年度第2回役員会開催（メール会議）

—2026年—

- 1月26日
日本図書館協会事務局へ「『各県別概況 北海道』北海道内短期大学図書館の概況（2025年1月～12月）」を送信
- 2月6日
令和7年度第3回北海道図書館連絡会議兼第66回（令和8年度）北海道図書館大会運営委員会（第2回）会議出席
- 3月31日
「北海道地区協議会通信 No.47」発行

令和7年度 会長及び役員館

- ◎会長 河村芳行（北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館長）
- 幹事館 拓殖大学北海道短期大学図書館
- 監査館 帯広大谷短期大学附属図書館
釧路短期大学附属図書館
- 事務局 北海道武蔵女子大学・北海道武蔵女子短期大学附属図書館

編集後記

第47号をお届けします。今号はいつにも増して各館の特性や創意工夫が際立つ内容になっているかと思えます。ハード面の整備も大切ですが、真にその図書館のアイデンティティを形成するのは、自館のコレクションやそこで働く人といったソフト面です。それらを活かし、広く発信していくことを目指した各館の取り組みが、皆様の今後の活動に少しでもお役に立てば幸いです。(M)

